南アメリカ・オセアニア州

名前

問1　オーストラリアにおける1960年から2020年にかけての輸出品目の変化と、その背景について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、1960年当時は羊毛が輸出額の40.5%を占めていたものとします。（2025年 福岡県公立入試 類似）

1. 広大な土地を利用した大規模な農業から、現在は付加価値の高い自動車や電子部品などの機械類の輸出へと移行した。
2. かつては羊毛などの農産物が輸出の中心だったが、現在は鉄鉱石や石炭などの鉱産資源が輸出額の多くを占めている。
3. かつては鉄鉱石などの鉱産資源が中心だったが、現在はアジア向けの肉類や小麦といった農産物の割合が急増している。
4. 1960年代から現在に至るまで、乾燥した気候を活かした羊毛の輸出が常に輸出総額の第1位を維持している。

問2　アンデス山脈の高地で見られる、地形や気候の特色を生かした人々の暮らしや産業に関する説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2023年 沖縄県公立入試 類似）

1. 広大な平坦地を利用して、大型機械を用いた大規模な小麦の企業的穀物農業が盛んに行われている。
2. 乾燥した砂漠地帯が広がるため、地下水路を利用したオアシス農業によってナツメヤシが生産されている。
3. 標高による気温の変化を利用し、高地ではジャガイモの栽培、家畜としてリャマやアルパカの飼育が行われている。
4. 年間を通じて温暖で降水量が多く、斜面を利用した大規模な水田稲作が主要な産業となっている。

問3　1970年頃から現代にかけてのブラジルの主要な輸出品目の変遷について述べた文として、正しいものはどれですか。統計上の変化を踏まえて選びなさい。（2024年 岡山県公立入試 類似）

1. かつては鉄鉱石や原油の輸出が中心であったが、近年はバイオ燃料の需要の高まりを受け、輸出品目をコーヒー豆のみに特化させている。
2. 1970年代から現代に至るまで、一貫してコーヒー豆が輸出額の5割以上を占め続けており、モノカルチャー経済の傾向がより強まっている。
3. 1970年頃から現在まで輸出品目の内訳にほとんど変化はなく、常に大豆が輸出額の1位であり、コーヒー豆は常に5位以下である。
4. 1970年頃には輸出額の3割以上を占めていたコーヒー豆の割合が低下し、2019年の統計では大豆が輸出額の1位となっている。

問4　南アメリカの諸地域における農業の特色について、アンデス山脈周辺の地域において古くから主食として栽培されている農作物の名称として正しいものを次の中から選びなさい。（2024年 岐阜県公立入試 類似）

1. キャッサバ
2. サトウキビ
3. トウモロコシ
4. じゃがいも

問5　ブラジルにおける1980年代から近年（2020年代）にかけての貿易構造の変化に関する記述として適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。（2026年 熊本県公立入試 類似）

1. 全輸出品に占める割合において、大豆とコーヒー豆のどちらも増加した。
2. 全輸出品に占める割合において、大豆が増加した一方でコーヒー豆は減少した。
3. 全輸出品に占める割合において、コーヒー豆が増加した一方で大豆は減少した。
4. 全輸出品に占める割合において、大豆とコーヒー豆のどちらも減少した。

問6　南アメリカ大陸の緯度に関する特徴と、他地域との比較について述べた文として正しいものはどれか。（2022年 愛知県公立入試 類似）

1. 大陸の最南端付近は南緯50度程度の高緯度に位置しており、北半球のアメリカ・カナダ国境付近と同程度の緯度まで陸地が広がっている。
2. 大陸の最南端を通過する緯線は、オーストラリア大陸の中央部を通過する南回帰線と同じ緯度である。
3. 大陸の最南端付近は赤道に極めて近いため、年間を通じて高温多湿な熱帯雨林気候が広がっている。
4. 大陸の最南端付近は南緯20度程度であり、熱帯低気圧の影響を強く受ける低緯度地域に含まれる。

問7　ニュージーランドのような島国が、その国土面積に比して広大な排他的経済水域を保持できる理由として、国際的な取り決めに照らして最も適切な説明はどれですか。（2023年 岡山県公立入試 類似）

1. 沿岸から12海里までの範囲を領海とし、さらにその外側の一定範囲を自由に占有できるため
2. 領土の広さに関わらず、すべての島国には一律の面積の経済水域が配分される仕組みがあるため
3. 南極条約に基づき、南半球の島国には北半球よりも広い管理水域が割り当てられているため
4. 沿岸から200海里までの海域において、漁業資源や海底資源を独占的に利用する権利が認められているため

問8　かつてイギリスの植民地であり、白人以外の移民を制限する「白豪主義」をとっていた国が、1970年代までに多様な民族の文化を尊重し共生を目指す方針へと転換しました。この現在の政策を何といいますか。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 多文化主義
2. 白豪主義
3. アパルトヘイト
4. 同化政策

問9　南アメリカ大陸の赤道直下に位置する国について述べた次の文のうち、2016年の統計データに基づいた説明として正しいものはどれですか。この国は、世界全体のバナナ輸出量である2064万トンのうち、597万トンを占めています。（2022年 京都府公立入試 類似）

1. ブラジルは、バナナの生産量は多いものの、そのほとんどを国内で消費するため輸出量は少ない。
2. フィリピンは、生産量と輸出量の両方において世界で最も高いシェアを占めている。
3. コロンビアは、コーヒーの輸出が中心であり、バナナの輸出量は世界全体の5パーセントに満たない。
4. エクアドルは、世界全体のバナナ輸出量の25パーセント以上を占める世界最大の輸出国である。

問10　ニュージーランドが現在進めている、先住民族マオリに対する社会的な取り組みの説明として、最も適切なものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. マオリを特定の居住区に強制的に隔離し、伝統的な狩猟採集生活のみを許可している。
2. マオリ独自の文化や社会的地位を尊重し、国家規模で彼らの権利を保護する政策を進めている。
3. マオリを唯一の国民として定義し、ヨーロッパ系住民の市民権を制限している。
4. マオリの言語や風習を公的に禁止し、イギリス式の文化に完全に同化させる政策をとっている。

問11　南アメリカのアルゼンチンにおける農業の仕組みやその背景について説明した文として、正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. アンデス山脈の厳しい自然環境に対応するため、ジャガイモやトウモロコシの自給的な栽培が中心となっている。
2. 沿岸部の乾燥地帯において、わずかな降水を利用した小規模な羊の放牧と果樹栽培が行われている。
3. アマゾン川流域の熱帯雨林を切り開き、輸出用のサトウキビを栽培するモノカルチャー経済が主流である。
4. 肥沃な平原であるパンパにおいて、資本を投入した大規模な経営による牧畜や穀物生産が行われている。

問12　ブラジルからの輸入総額を1975年から2015年まで5年ごとに調査した統計において、5年前と比較して「輸入総額が増加した」時期の正しい組み合わせはどれですか。（2021年 北海道公立入試 類似）

1. 1990年～1995年、および1995年～2000年の区間
2. 1975年～1980年、および2005年～2010年の区間
3. 1975年から2015年までのすべての5年区間
4. 1980年から1985年、および1990年から1995年の区間

答え合わせ・解説

問1	答え 2 かつては羊毛などの農産物が輸出の中心だったが、現在は鉄鉱石や石炭などの鉱産資源が輸出額の多くを占めている。	オーストラリアは広大な国土と豊富な資源に恵まれており、時代によって需要に応じた輸出品目を変化させてきました。1960年代には羊毛や小麦といった農産物の輸出が主要でしたが、2020年の統計では鉄鉱石が32.7%、石炭が12.3%を占めるなど、鉱産資源が輸出の柱となっています。これは、アジア地域の経済成長による鉄鋼生産や発電用燃料の需要増加に対応した結果です。
問2	答え 3 標高による気温の変化を利用し、高地ではジャガイモの栽培、家畜としてリャマやアルパカの飼育が行われている。	アンデス山脈は低緯度にありながら標高が高いため、高度によって栽培される作物が異なります。寒冷な高地では低温に強いジャガイモの栽培や、毛を利用するリャマ・アルパカの飼育といった独自の生活文化が発達しました。他の選択肢にある大規模な小麦栽培はアルゼンチンのパンパ、オアシス農業は西アジアなどの特徴です。
問3	答え 4 1970年頃には輸出額の3割以上を占めていたコーヒー豆の割合が低下し、2019年の統計では大豆が輸出額の1位となっている。	ブラジルの経済構造は時代とともに大きく変化しています。1970年頃まではコーヒー豆に大きく依存していましたが、広大な土地を活用した大豆栽培や放牧による肉類の生産が活発化しました。また、アマゾン川流域などでの鉄鉱石の採掘や、海底油田の開発による原油輸出も盛んになりました。2019年のデータでは、かつて主役だったコーヒー豆に代わり、大豆が輸出額の首位に立っています。
問4	答え 4 じゃがいも	アンデス山脈周辺の地域では、地形や気候などの自然環境に合わせて多様な農業が行われています。じゃがいもはアンデス山脈が原産地とされており、標高が高く冷涼な地域においても栽培が可能なため、古くからこの地域に住む人々の生活を支える主食として栽培され続けてきました。
問5	答え 2 全輸出品に占める割合において、大豆が増加した一方でコーヒー豆は減少した。	ブラジルではかつてモノカルチャー経済のもとでコーヒー豆の栽培と輸出が中心でしたが、近年の大規模な農地開発や世界的な需要の高まりにより、全輸出品に占める大豆の輸出額の割合が増加した一方で、コーヒー豆の割合は減少しました。
問6	答え 1 大陸の最南端付近は南緯50度程度の高緯度に位置しており、北半球のアメリカ・カナダ国境付近と同程度の緯度まで陸地が広がっている。	南アメリカ大陸は南北に非常に長く、大陸北部に赤道が通る一方で、南端は南緯50度付近という高緯度に達します。北半球においてこれに近い緯度（北緯49度）はアメリカ合衆国とカナダの国境線にあたり、南半球の陸地が北半球の主要な国々に匹敵する高い緯度まで存在していることが地理的な特徴となっています。
問7	答え 4 沿岸から200海里までの海域において、漁業資源や海底資源を独占的に利用する権利が認められているため	国連海洋法条約により、沿岸国は海岸線から200海里（約370km）までの範囲を排他的経済水域（EEZ）として設定できます。この水域内では、漁業資源（魚介類）や鉱物資源（天然ガスや海底熱水鉱床など）の探査・開発に関する主権的権利が認められています。ニュージーランドは四方を海に囲まれた島国であるため、このルールによって国土の何倍もの広さの海域を自国の経済活動に活用できる仕組みになっています。
問8	答え 1 多文化主義	1901年の連邦成立以来、オーストラリアでは白人以外の移民を制限する「白豪主義」がとられていました。しかし、第二次世界大戦後の国際情勢の変化や労働力不足の解消、地理的に近いアジア諸国との結びつきを重視する必要から、1970年代までにこの政策は廃止されました。現在は、多様な民族がそれぞれの伝統文化を維持しながら共生する社会を目指しています。
問9	答え 4 エクアドルは、世界全体のバナナ輸出量の25パーセント以上を占める世界最大の輸出国である。	エクアドルはスペイン語で「赤道」を意味する国名通り、赤道直下に位置する国です。バナナの生産においては、インドや中国、フィリピンなども上位に位置しますが、輸出量に注目すると、2016年時点で世界全体の約28.9%（約4分の1強）を占めており、世界最大の輸出拠点としての地位を確立しています。
問10	答え 2 マオリ独自の文化や社会的地位を尊重し、国家規模で彼らの権利を保護する政策を進めている。	ニュージーランドでは1840年のワイタンギ条約に基づき、先住民族であるマオリの権利が尊重されています。かつては対立もありましたが、現在は多文化主義に基づき、彼らの言語や文化、土地に対する権利を国家レベルで保護・尊重する共生社会の形成が進められています。
問11	答え 4 肥沃な平原であるパンパにおいて、資本を投入した大規模な経営による牧畜や穀物生産が行われている。	アルゼンチンの農業は、広大な平原「パンパ」を舞台とした企業的農業が特徴です。かつては牧畜が中心でしたが、冷凍船の普及や世界の需要の変化に伴い、小麦や大豆などの穀物生産も拡大しました。これらは家族経営のような小規模なものではなく、広大な土地に資本を投じた大規模な形態で行われており、世界有数の農畜産物輸出地域となっています。
問12	答え 2 1975年～1980年、および2005年～2010年の区間	ブラジルからの輸入総額が5年前と比較して増加したのは、1975年→80年、1985年→90年、2000年→05年、2005年→10年の合計4度です。1990年から1995年にかけては輸入額が減少（46百億円から37百億円）しており、増加の事例には当てはまりません。